

<概要>

「電気事業法」及び「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」に基づき、平成2年度に報告がなされた故障・トラブルの件数は、24件であった。この24件の内訳は、運転中に発生したものが11件、定期検査での原子炉停止中に発生したものが11件、定期検査での調整運転中に発生したものが2件であった。これらの故障・トラブル等を管理要素別に分類すると、施工管理が不適切なものが12件、保守管理が不適切なものが10件、その他2件（誤操作）であった。これらの故障・トラブル等による原子炉施設の周辺環境への放射能の影響はなかった。

<更新年月>

1998年05月（本データは原則として更新対象外とします。）

<本文>

「電気事業法」及び「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」（以下「原子炉等規制法」という。）の規定に基づき、平成2年度に報告がなされた故障・トラブル等の件数は24件であった。この24件の内訳は、運転中に発生したものが11件、定期検査での原子炉停止中に発生したものが11件、定期検査での調整運転中に発生したものが2件であった。これらの故障・トラブル等を管理要素別に分類すると、施工管理が不適切なものが12件、保守管理が不適切なものが10件、その他2件（誤操作）であった。なお故障・トラブル等による原子炉施設の周辺環境への放射能の影響はなかった。

平成2年度の実用発電用原子炉施設における故障・トラブル等の概要（電気事業法及び原子炉等規制法に基づき報告があったもの）を表1-1、表1-2、表1-3 および表1-4 に示す。

<関連タイトル>

日本の原子力発電所における事故・故障・トラブルの推移（2005年度まで）(02-07-01-01)

日本におけるBWR原子力発電所の主要な事故・故障・トラブル（2005年度まで）(02-07-01-02)

日本におけるPWR原子力発電所の主要な事故・故障・トラブル（2005年度まで）(02-07-01-03)

平成2年度試験研究用原子炉における事故・故障(12-03-01-11)

平成2年度放射性同位元素等取扱施設における事故・故障(12-06-01-11)

<参考文献>

(1) 通商産業省資源エネルギー庁・公益事業部 原子力発電安全管理課（編）：原子力発電所運転管理年報 平成3年版（平成2年度実績）、（平成3年8月発行）

(2) 原子力安全委員会（編）：平成3年版 原子力安全白書 大蔵省印刷局（1992）

表 1-1 1990年度の故障・トラブル等の 評価状況（その1）

発生年月日	発電所名	概 要	影響度 評価結果
1990. 5.25	関西電力(株) 美浜発電所 2号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、管板直上部及び管板拡張部に有意な指示を発見。	0(0,0,0)
1990. 5.27	東京電力(株) 福島第一原子力 発電所 2号機	定期検査中、非常用ディーゼル発電機の機能試験を実施したところ、異音が認められたため、当該発電機を停止。点検の結果、ディーゼル機関の一部の気筒に損傷を発見。原因は、ピストンと今回の定期検査に交換した新品のシリンダライナのなじみが不足していたため。	0(0,0,0)
1990. 6.12	東京電力(株) 福島第二原子力 発電所 4号機	定格出力運転中、原子炉再循環ポンプの軸封部に機能低下が認められたため、当該軸封部を取り替えることとし、原子炉手動停止。	0(0,0,0)
1990. 6.13	東京電力(株) 福島第二原子力 発電所 1号機	定格出力運転中、原子炉再循環ポンプの軸封部に機能低下が認められたため、当該軸封部を取り替えることとし、原子炉手動停止。	0(0,0,0)
1990. 6.29	関西電力(株) 高浜発電所 2号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、管支持板部及び管板上面直下部に有意な指示を発見。	0(0,0,0)
1990. 7.26	東京電力(株) 福島第一原子力 発電所 3号機	調整運転中、「原子炉水位高」の信号により、蒸気タービンが自動停止。このため、原子炉手動停止。 原因は、給水流量制御弁の動作不良により、給水流量制御が不調となったため。	1(0,0,1)

注) () 外は評価結果

() 内は基準1、2、3

基準-1 放射性物質の原子炉施設外への影響

基準-2 放射線業務従事者の計画外被ばく

基準-3 原子炉施設の状況

(出典) 原子力安全委員会(編)：平成3年版 原子力安全白書 大蔵省印刷局(1992)

表 1-2 1990年度の故障・トラブル等の 評価状況（その2）

発生年月日	発電所名	概 要	影響度 評価結果
1990. 9. 9	東京電力(株) 福島第一原子力 発電所 3号機	定格出力運転中、「中性子束高」の信号により、原子炉自動停止。 原因は、1台の主蒸気隔離弁の弁体と弁棒との接合部に使用している回止めピンの取付けが不十分であったため、蒸気の振動によりピンが損傷し、弁体の主蒸気管を閉塞したため。	2(0.0.2)
1990. 9.15	日本原子力 発電(株)敦賀 発電所 1号機	定格出力運転中、床ドレンサンプビットへの流入量の増加が認められたため、原子炉手動停止。 原因は、主蒸気管に設置されている予備の管台のフランジ部の取付けが不適切であったことにより、蒸気が漏えいしたため。	1(0.0.1)
1990. 9.25	九州電力(株) 玄海原子力 発電所 1号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、管支持板部及び管板上面直下部に有意な指示を発見。	0(0.0.0)
1990.10. 1	日本原子力 発電(株)敦賀 発電所 2号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、振止め金具部に有意な指示を発見。	0(0.0.0)
1990.10. 8	中部電力(株) 浜岡原子力 発電所 1号機	定期検査中、燃料体 SHIPPING 検査を実施した結果、5体の漏えいを発見。	1(0.0.1) ※※※※
1990.10.17	東京電力(株) 福島第一原子力 発電所 1号機	定格出力運転中、タービン発電機の「軸受振動大」の警報が発生したため、点検のため原子炉手動停止。 原因は、タービン発電機の軸封部摺動面の面あれが進展しシールリングの動きが円滑でなくなったため。	0(0.0.0)

注) ※印は、平成4年度版による。

() 外は評価結果

() 内は基準1、2、3

基準-1 放射性物質の原子炉施設外への影響

基準-2 放射線業務従事者の計画外被ばく

基準-3 原子炉施設の状況

(出典) 原子力安全委員会(編):平成3年版 原子力白書 大蔵省印刷(1992)

表 1-3 1990年度の故障・トラブル等の 評価状況（その3）

発生年月日	発電所名	概 要	影響度 評価結果
1990.10.18	四 国 電 力 ㈱ 伊 方 発 電 所 1 号 機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、管板拡張部に有意な指示を発見。	0(0,0,0)
1990.11.19	中 国 電 力 ㈱ 島 根 原 子 力 発 電 所 2 号 機	定格出力運転中、「原子炉再循環ポンプ（B）電動機潤滑油位低」の警報が発生したため、原子炉手動停止。 原因は、当該電動機下部軸受部の排気風量が設計より多かったため、排気に伴って移送される潤滑油量が多くなり、油面が警報設定値まで低下したため。	0(0,0,0)
1990.11.19	東 北 電 力 ㈱ 女 川 原 子 力 発 電 所 1 号 機	調整運転中、タービン発電機のタービン軸受メタル温度に上昇傾向が認められたため、原子炉手動停止。 原因は、軸受に潤滑油を供給する系統のオリフィスストレーナの取付け不良により、潤滑油が不足したため。	0(0,0,0)
1990.11.29	日 本 原 子 力 発 電 ㈱ 東 海 第 二 発 電 所	定格出力運転中、床ドレンサンプビットへの流入量の増加が認められたため、原子炉手動停止。 点検の結果、原子炉給水系の逆止弁のドレン配管に取付けられている2台の止め弁から、蒸気が漏えいしたため。	0(0,0,0)
1990.12. 4	中 国 電 力 ㈱ 島 根 原 子 力 発 電 所 2 号 機	発電再開準備中、設定値より低い主蒸気圧力において原子炉モードスイッチを「起動」から「運転」に切り替えたため、「主蒸気隔離弁閉」の信号により原子炉自動停止。	1(0,0,1)
1991. 1.18	関 西 電 力 ㈱ 大 飯 発 電 所 1 号 機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、管支持板部、管板拡張境界部及び管板拡張部に有意な指示を発見。	0(0,0,0)

注) () 外は評価結果

() 内は基準 1、2、3

基準-1 放射性物質の原子炉施設外への影響

基準-2 放射線業務従事者の計画外被ばく

基準-3 原子炉施設の状況

〔出典〕原子力安全委員会（編）：平成3年版 原子力白書 大蔵省印刷（1992）

表 1-4 1990年度の故障・トラブル等の 評価状況（その4）

発生年月日	発電所名	概要	影響度 評価結果
1991. 1.30	関西電力(株) 高浜発電所 1号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、U字管部、管支持板部、管板拡張境界部及び管板拡張部に有意な指示を発見。	0(0,0,0)
1991. 2. 9	関西電力(株) 美浜発電所 2号機	定格出力運転中、「加圧器圧力低」の信号により原子炉が自動停止するとともに、「加圧器圧力低と加圧器水位低の一致」の信号により非常用炉心冷却装置が動作。	3(0,0,3) ※※※※
1991. 2.21	東京電力(株) 柏崎刈羽原子力 発電所 2号機	定格出力運転中、「主油ポンプ吐出圧力低」の信号により蒸気タービンが自動停止、引き続き原子炉自動停止。 原因は、主油タンクから油受けタンクへの連絡配管に設置されている弁を誤って開操作したため。	1(0,0,1)
1991. 3.26	日本原子力(株) 発電(株) 東海発電所	運転中、燃料取替機によるスタンドパイプ閉止蓋のつかみ状態が確認できなかったため、原子炉手動停止。 原因は、シールリングが溝からはずれ、閉止蓋の上に落下したため。	0(0,0,0) ※※※※
1991. 3.28	関西電力(株) 高浜発電所 3号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、振止め金具部に有意な指示を発見。	0(0,0,0) ※※※※
1991. 3.28	関西電力(株) 美浜発電所 3号機	定期検査中、蒸気発生器伝熱管の渦電流探傷検査の結果、管支持板部、管板拡張境界部及び管板拡張部に有意な指示を発見。	0(0,0,0) ※※※※

注) ※印は、平成4年度版による。

() 外は評価結果

() 内は基準1、2、3

基準-1 放射性物質の原子炉施設外への影響

基準-2 放射線業務従事者の計画外被ばく

基準-3 原子炉施設の状況

〔出典〕原子力安全委員会（編）：平成3年版 原子力白書 大蔵省印刷（1992）